

知れば知るほど

いいね!

軽自動車

低燃費

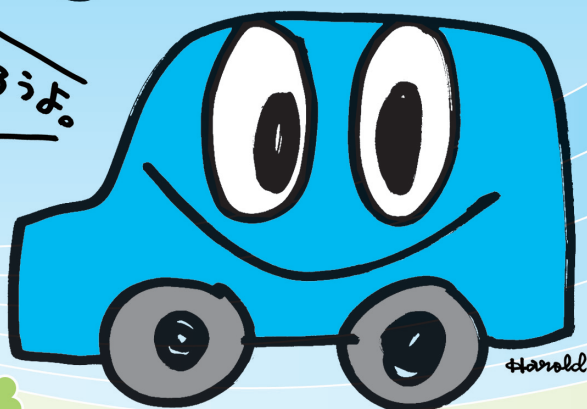
省資源

使いやすい

日常の足

経済的

いっしょに走ろうよ。



社団法人 全国軽自動車協会連合会

<http://www.zenkeijikyo.or.jp>

軽自動車に乗る、ということ。 それも、ひとつのエコスタイルです。

さまざまなカタチで、環境に配慮しながら暮らしている。
そんなエコスタイルが、いつの間にか身近になってきました。
軽自動車を選ぶことも、実はエコに貢献できることなのです。

いまやライフラインとして、女性や高齢者、
地方で暮らしている人々にとって
欠かせない移動手段といえる軽自動車。

コンパクトで乗りやすく、経済的であるとともに、
地球のゆたかな未来を想って走り続けています。

軽自動車は、どんなところが
環境に配慮しているのですか？

燃費の良さ、CO₂の排出量、車両重量の軽さ。
こうした点が環境負荷を抑えています。



660ccという、小さな排気量の軽自動車。車体が小さくて軽いため低燃費。燃料の消費量が少なくて済み、CO₂排出量の抑制にもつながります。生産に必要な材料やエネルギーなどの消費量も少ないので、省資源です。このように、軽自動車は環境に十分配慮した乗り物と言えます。

平均燃費

CO₂
排出量が
少ない

軽乗用車の平均燃費は

1ℓあたり **20.9km**



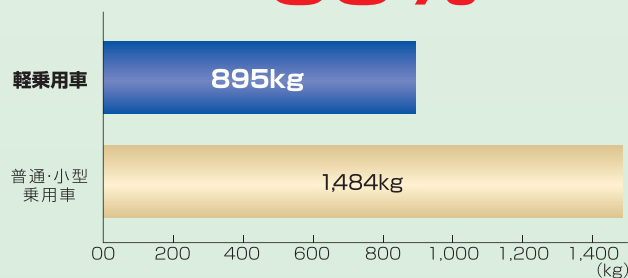
資料:2009年度、軽乗用車は軽自動車メーカー調べ、
乗用車全体は一般社団法人 日本自動車工業会調べ(乗用車全体には軽乗用車を含む)
※国産車(日本車)のみでの算出

車両重量

省資源に
貢献

軽乗用車の重量は

普通・小型乗用車の約 **60%**



資料:車両重量は「自動車燃費一覧 平成22年3月」(国土交通省)に掲載されたガソリン乗用車の車両重量中の中間値を平均したもの

軽自動車選ばれているのは、
どんな理由からですか？

人気の理由は、何より経済的なこと。
車体がコンパクト・省スペースだから、使いやすいことです。



燃費、価格、税金に納得。

◆経済性からの選択理由

(複数回答)	税金が安い	燃費が良い	価格が安い
軽乗用系	85%	61%	41%
軽キャブバン	65%	48%	39%
軽トラック	60%	46%	48%

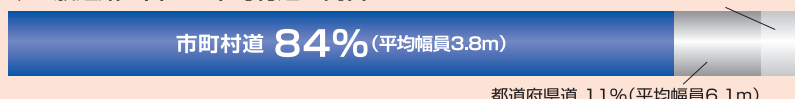
資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月 (社)日本自動車工業会

狭い道もらくらく、安心。

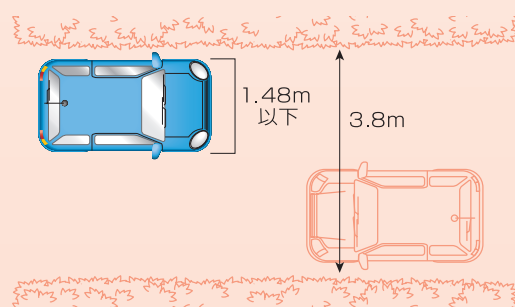
日本の道路の約84%は、道幅平均3.8m*の狭い市町村道。車幅が1.48m以下の小さい軽自動車なら、市街地の路地や農道もスムーズ。対向車とのすれ違いも安心です。

*一般道路全体の平均幅員は4.2m

◆一般道路に占める市町村道の割合



資料：2008年4月1日現在、「道路統計調査」国土交通省 ※幅員は車道部のみ



縦列駐車もお手のもの。

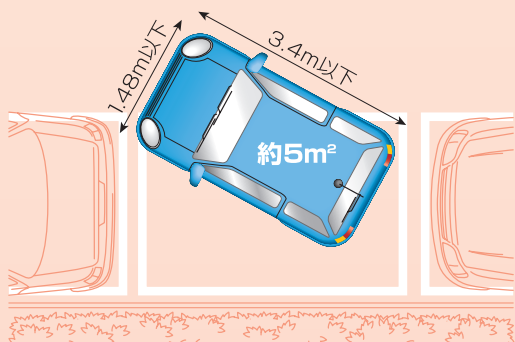
軽自動車は、最小回転半径が平均4.5m*と小回りがききます。わずかなスペースにも、らくに駐車できる手軽さ。また専有面積約5m²の省スペース性は、渋滞の緩和にも一役買っています。

*「自動車ガイドブック vol.56 2009～2010」(社)日本自動車工業会のカタログに掲載された軽乗用車の平均値

◆使いやすさからの選択理由

(複数回答)	運転がしやすい	狭い道で使いやすい	駐停車がしやすい
軽乗用系	54%	51%	37%
軽キャブバン	40%	59%	30%
軽トラック	39%	57%	22%

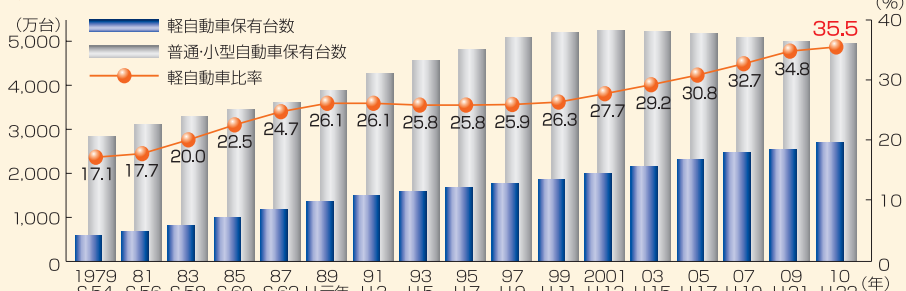
資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月 (社)日本自動車工業会



日常生活はもちろん、クルマ社会の未来まで。 軽自動車は支え続けていきます。

軽自動車の保有台数は2,600万台以上と、自動車の総保有台数の3割を占めます。毎日の暮らしや仕事だけでなく、より良い環境づくりにも貢献できる大切な存在であるように。軽自動車はこれからも、その期待に応えていきます。

◆自動車保有台数・軽自動車比率の推移



資料：各年3月末現在、「自動車保有車両数」(財)自動車検査登録情報協会

軽自動車に乗っているのは、
どんな人が多いのでしょうか？

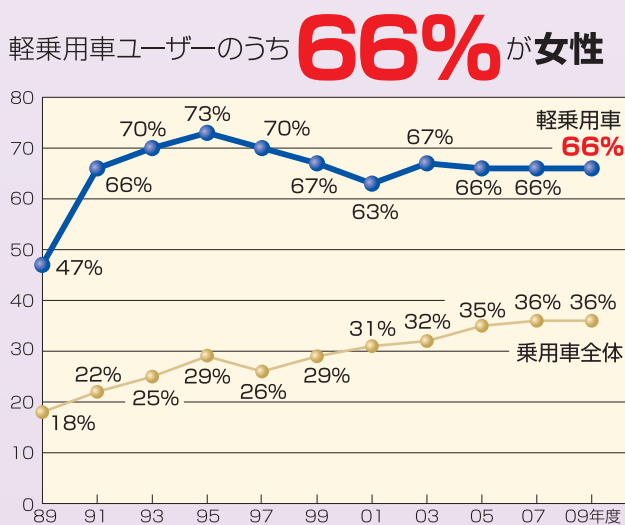
圧倒的に多いのが、女性ユーザー。
60歳以上の高齢者の方も年々、増加しています。



軽自動車ユーザーの3人に2人は女性で、そのうち約8割近くが既婚女性です。年代別の就業率を見ても、軽自動車が働く女性の就業を助けていると言えます。また、高齢ドライバーからは「買い替えるなら軽自動車」という声も多く、軽自動車ユーザーのうち60歳以上の高齢者は約3割に増えています。

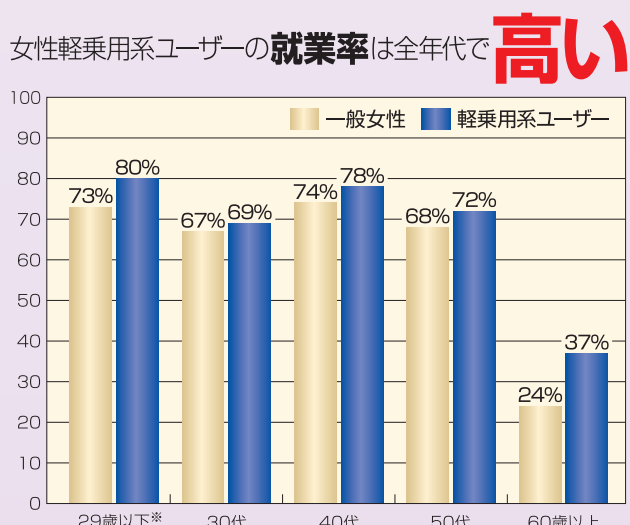
女性にとって頼れる味方

女性ユーザー比率の推移



資料：軽乗用車は「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会
乗用車全体は「2009年度 乗用車市場動向調査」2010年3月（社）日本自動車工業会
（乗用車全体には軽乗用車を含む）

年代別に見た女性の就業率

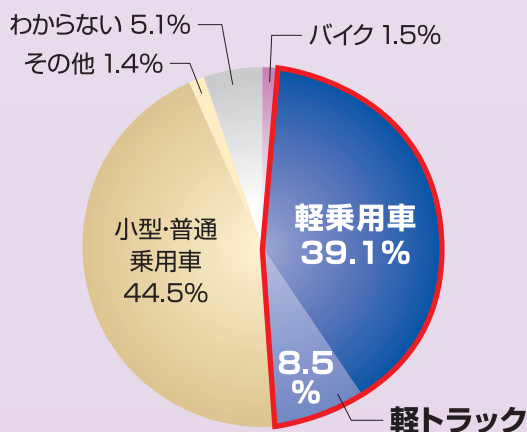


資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会
※軽乗用系ユーザー：18～29歳 一般女性：20～29歳

高齢者の間で高まる支持

つぎに買い替えたい車種

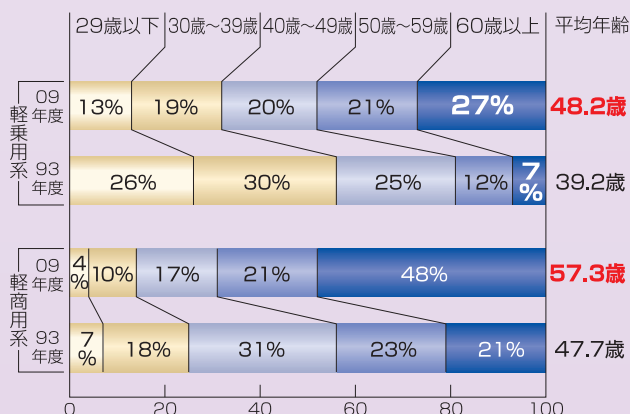
約**半数**の高齢ドライバーが「軽」と回答



資料：「高齢ドライバーアンケート調査結果」高齢者にやさしい自動車開発推進知事連合

軽自動車ユーザーの年齢

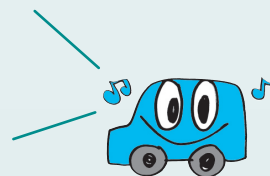
軽乗用系ユーザーのうち**60歳以上**の
占める割合は約**4倍**に増加



資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会

地方ほど軽自動車をよく見かけるのはなぜですか？

公共の交通機関が利用しにくい地域では、
移動に欠かせない手段となっています。

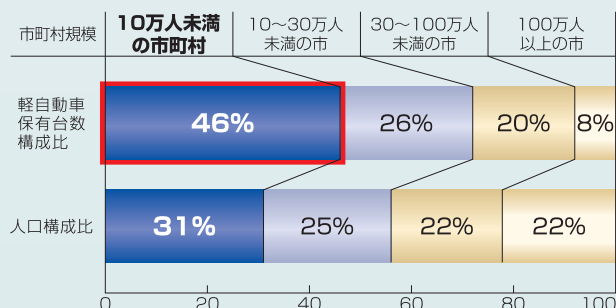


人口構成比が約3割に過ぎない人口10万人未満の市町村で、全国の軽自動車の半数近くが保有されています。これは、人口規模の小さい市町村では公共交通機関が利用しにくいところが多く、軽自動車が移動に欠かせない足となっているからです。鉄道営業キロ数が短い県ほど、軽自動車の普及率が高いことからわかります。

軽自動車保有台数の人口規模別構成比

10万人未満の市町村で

約半数が保有されている

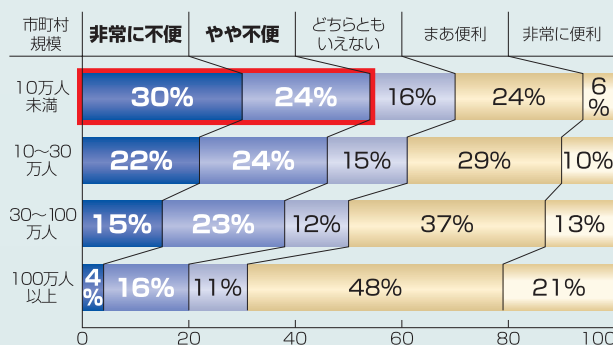


資料：保有台数は2010年3月末現在、「市町村別軽自動車車両数」(社)全国軽自動車協会連合会
人口は2010年3月末現在、「住民基本台帳に基づく人口」総務省
(東京特別区は100万人以上に分類)

軽自動車ユーザーから見た公共交通の利便性

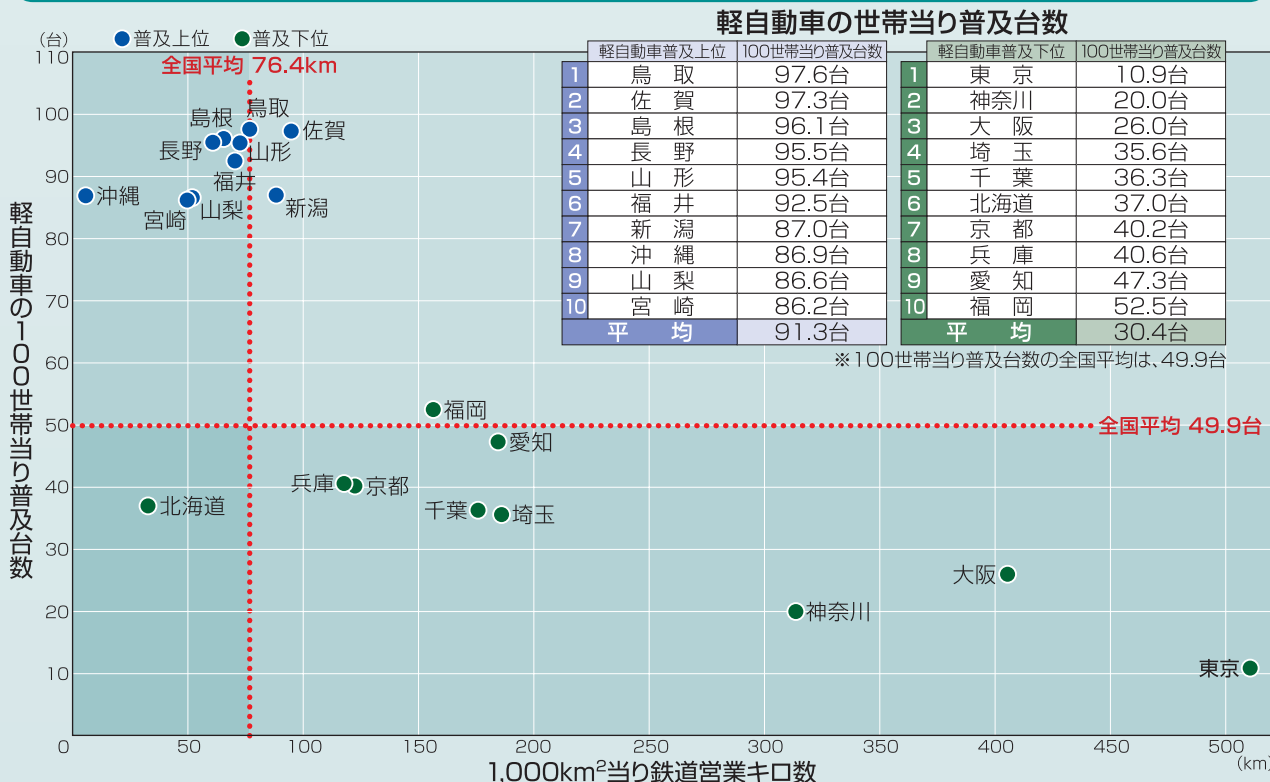
10万人未満の市町村で

半数以上が不便だと感じている



資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月 (社)日本自動車工業会

軽自動車の普及と鉄道営業キロの関係



資料：100世帯当り普及台数は平成22年3月末現在、(社)全国軽自動車協会連合会調べ
1,000km²当り鉄道営業キロ数は平成20年3月31日現在、地方運輸局調べ
都道府県総面積は平成17年10月1日現在、国土地理院調べ

軽自動車は、どのような用途で多く使われていますか？

毎日の買物や通勤・通学はもちろん、
商店や工場、農作業のチカラになっています。

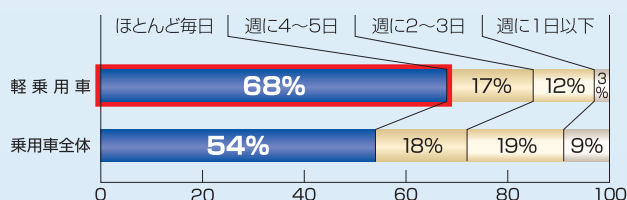


軽自動車ユーザーの多くは、ほとんど毎日、「買物・送迎」「通勤・通学」に利用しています。また、軽自動車の保有世帯の75%が他にもクルマを持っており、軽自動車はセカンドカーの役割も担っています。商用車の大半を占める軽商用車は、個人商店や町工場、農家などで、「小口配送」をはじめ近距離の業務にフットワークの良さを発揮しています。

いつでもどこでも手軽に利用

軽乗用車ユーザーの使用頻度

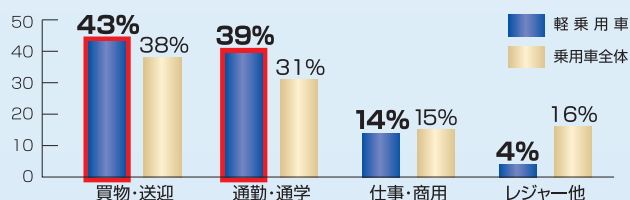
68%のユーザーがほとんど毎日使用



資料：軽乗用車は「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会
乗用車全体は「2009年度 乗用車市場動向調査」2010年3月（社）日本自動車工業会
（乗用車全体には軽乗用車を含む）

軽乗用車ユーザーの主な用途

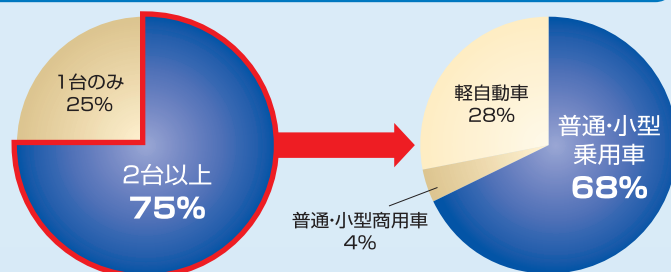
82%のユーザーが「買物・送迎」「通勤・通学」に使用



資料：軽乗用車は「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会
乗用車全体は「2009年度 乗用車市場動向調査」2010年3月（社）日本自動車工業会
（乗用車全体には軽乗用車を含む）

軽乗用系保有世帯での複数保有とその車種

75%の世帯が他にもクルマを保有
そのうち**68%**は普通・小型乗用車

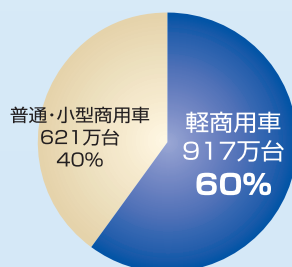


資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会

仕事や商売の良きパートナー

軽商用車の保有台数比率

全商用車のうち
60%が
軽自動車



資料：2010年3月末現在、「自動車保有車両数」(財)自動車検査登録情報協会

軽商用車の主な用途

(複数回答)	小口配送	工場等への足	営業活動	田畑への往復・農作物の運搬
軽キャブバン	35%	29%	22%	23%
軽トラック	19%	24%	8%	61%

資料：「2009年度 軽自動車の使用実態調査報告書」2010年3月（社）日本自動車工業会

【参考】本冊子では、原則として軽自動車を次のように分類しています。
・軽乗用系：軽乗用車、軽バンネットバン
・軽商用系：軽キャブバン、軽キャブワゴン、軽トラック

発行 社団法人 全国軽自動車協会連合会

編集協力 スズキ株式会社・ダイハツ工業株式会社・日産自動車株式会社・富士重工業株式会社・
本田技研工業株式会社・マツダ株式会社・三菱自動車工業株式会社